

あはでうがるる

松田一美短歌全集





表紙・表紙裏の写真 妻（仁恵）が庭で育てた薔薇の数々

表題の「あはでこがるる」は『閑吟集』の「身は鳴門舟かや逢はで焦がるる」（阿波で漕がるる）に因る

短歌集を開いてくれたあなたに

松田 一美

松田一美短歌全集

塚本邦雄先生からの贈歌

松蟲の聲を待つだにさびしきをおきたる露の數見よとこそ

『詞花芳名帖』一九九〇年霜月刊

きみの便り待つだに哀し刻刻の命と消ゆる泡のかず見よ

「FAX開通記念」一九九六年師走二十四日

花一輪咲くを待つだに春の極み霞みてそれもつつひの榮えと

「玲瓏賞受賞祝」二〇〇〇年長月二十四日

リラの花便り待つだにさびしきを行かず見ることもなきわが春

塚本青史氏より師の遺品（FAX専用の用紙）として戴く。

言葉の花

塚本邦雄先生の詞・歌

三十一文字は、最古典の詩歌です

死んでしまった言葉

文體韻文を使つて創る

よほどの覺悟と

よほどの狂氣がなければ

生きてゐられる世界ではないと言はれてゐます

それでもあへて携はつてゐるのは

日本の最も美しい大和言葉を

用ゐてゐるその誇りがあるからです

私にとつては

短歌こそ日本の

言葉の花

あるときは稀れなる夢となり

あるときは手のつけようもないエネルギー

もちろん一般の人の眼には

時代錯誤と映るかも知れません

けれども一方

人は必ずしも合理性を好むものではない

また人は無心の風景にプレステージを

感じることもあるはずです

歌は人間と呼ぶ不可解な生きもの

魂を懸けた遊び無用であるからこそ

もつと重要ないとなみだと

固く信じてゐます

時間こそ花なるべきにわがゆくてわが來し方の虚無の空間

松田一美短歌全集

目次

遊げいにあそぶ於藝

・・・・・・・・・・17

二〇二二年・・・・・・・・・・18

げいにあそぶ

遊於藝(讀書日記)／聖書の扉／ハルキを読む／最後に食べたいもの

「ちらし寿司」／いのちは無休／年賀狀添歌

二〇二一年・・・・・・・・・・33

霜月寂寂／月光是冷ゆ／歌句聯彈(夏の部・秋の部・冬の部・春の部・

夏の部Ⅱ)／不條理／繭籠り／妙に切ない／コロナ禍東京五輪騒動記／

泉下の客／まだデイスタンス

モナドの靈異記・・・・・・・・・・80

二〇二一年・・・・・・・・・・81

生きたかりけり／空と生きけむ／五月蠅え！感染せえ！／

風の歌を聴け(讀書日記Ⅲ)／エミリーに薔薇を(讀書日記Ⅱ)／

神の死をみたことがない(讀書日記Ⅰ)／域値下投影法／佛壇守／

モナドの靈異記(モナドには窓がない・モナドは生きた鏡である)／

疾風怒濤／『新漢和中辭典』／早春三景／はつはる

二〇二〇年・・・・・・・・・・108

「花」ものがたり／遺品整理／母の消滅(骨髓異形成症候群・
餘年とか與年について・可惜身命・不惜身命・母は琴斷つ・

永遠たれ永遠たれ)／點と線の微妙な記憶／魑魅魍魎／紙一重／
危機／ザムザの國へ／胸ぎしり／すぷりんぐ／音叉のやうな

歲月のしづく・・・・・・・・・・138

二〇一九年・・・・・・・・・・139

まちゆぴちゆ／挽歌「寒牡丹」／孵化鳴なよる／平成名殘歌／吉野川市／
紺のおもかげ／九十九折れ／村上春樹／れいめいき／また夏は来る

二〇一八年・・・・・・・・・・151

水無月と文月の記／花を千切るな／てふてふ／挽歌「惜夏・孟蘭盆」／
火星の井戸／挽歌「長月の羈旅」／體は焼かれた／羊齒／獸／
遊びをせむとや生まれけむ／火種／散歩道／いのちのほむら

二〇一七年・・・・・・・・・・174

默禱月／世界、この不思議なる負の聯鎖／杉田卓式繪畫個展鑑賞／木屋平村／
こゑとよむなり／未來／挽歌「五月寂漠」／櫻めぐり／歲月のしづく／申去西來

二〇一六年・・・・・・・・・・196

無に歸するなり／風のしやらぽあ／樹になりたやなう／時代は奔る／

師・塚本邦雄／欽席症候群／こんがらかる／無病食材／非文字／年賀狀添歌

二〇一五年・・・・・・・・・・206

テロップのテロル／狹庭騷動記／武藏はひつぎ／還暦／新人賞・壁・斷念／

淮南子／挽歌「はるのいかづち」／書活明暗境界線／歳旦／年賀狀添歌

とほくにある物語・・・・・・・・・・221

二〇一四年・・・・・・・・・・222

ライン通信／一年前の歳暮歳旦／卯月ノ京ニ遊ブ／挽歌「悲歎哀惜」／幽春／

伊勢神宮參拜／遷宮の杜・出雲大社參拜／春や立つらむ／年賀狀添歌

二〇一三年・・・・・・・・・・239

夏の終はりのためのアド・リブ／花を聞く人と遭ふ／われはこひなむ／

萬葉の風（小説插入歌）／韻律に魅せられて／訪ひに來よ／年賀狀添歌

二〇一二年・・・・・・・・・・248

吉野川流域逍遙／いのちのかけら／時のいろどり／歌壇彩彩／そよろ浮かれて／

枯渇あるいは渴望の章／年賀狀添歌

二〇一一年・・・・・・・・・・257

鳥の目でみた三月の惨／なべては架空／ゆめをゆく夏／われもただよふ／
歌日記の試み／薔薇の露／年賀狀添歌

二〇一〇年・・・・・・・・・・263

紺の雪ふる／靜寂な朱鷺／あをみどろどろ／ぼくは五十四階にゐた／年賀狀添歌

二〇〇九年・・・・・・・・・・268

とほくにある物語／銀／何もかも有耶無耶／鬼籠野を越ゆる／

京都嵯峨芒ノ馬場逍遙／閑吟集つれづれ／年賀狀添歌

二〇〇八年・・・・・・・・・・273

短歌が生まれるとき／ソナタ、そは奏でり／スメタナとサティのはざまで／

出會ひの風景／焦がるるおもひ／道をうたふ／年賀狀添歌

二〇〇七年・・・・・・・・・・282

一滴の夏／春の記憶から／冬のための斷片／年賀狀添歌

二〇〇六年・・・・・・・・・・285

ながらへば、詩／時の考察／風は樹による／竿かたぎ／年賀狀添歌

二〇〇五年・・・・・・・・・・289

詩花交響／さうして村は消滅した／阿波逍遙其の二／年賀狀添歌

異端蝶のゐる風景・・・・・・・・・・294

二〇〇四年・・・・・・・・・・295

秋のかぎり／阿波逍遙其の一／萬葉の彩／未蹈の海／年賀狀添歌

二〇〇三年・・・・・・・・・・300

『夢幻空花』抄／白妙の／迷ひびと／挽歌「歸去來」

二〇〇二年・・・・・・・・・・320

深い河／うたかたびと／若月記／年賀狀添歌

二〇〇一年・・・・・・・・・・323

摩天樓崩壊／イントロダクション／二十一世紀／樹海へ／野邊のひるがほ／

さにつらふ／年賀狀添歌

二〇〇〇年・・・・・・・・・・331

鬱魂／異端蝶組曲／糸結ふ／昇魂／夏のあけぼの／海蛇座／遊べや遊べ

一九九九年・・・・・・・・・・337

あさきゆめみむ／レクイエム／墮ちてこそ／しのめ／この世のほか／

死のものがたり／縁

一九九八年・・・・・・・・・・345

ゆめがたり／弑虐記念日／悦子姉さん、さやうなら／白髪童子／創痕／
夏の装飾／折らで歸らな／ゆめの落書／年賀狀添歌

一九九七年・・・・・・・・・・357

砂の果實／風葬傳／枯らびずや／青春のうた／年賀狀添歌

一九九六年・・・・・・・・・・362

跼天踏地／波源／ゆらめける／夏霞／精神の岐路／あはづき夜／醒睡抄

妄想顛倒夢幻・・・・・・・・・・378

一九九五年・・・・・・・・・・379

空蟬／いたづらに／忘れられた手帖／妄想顛倒夢幻／夏劇／健二螢はいづこ

一九九四年・・・・・・・・・・403

鱗翅紅裙／夏塵／蝕既鏤刻／短歌私観／あめのむらくも／淋漓曆日／歪む種子／
年賀狀添歌／作歌のはじまり

一九九三年・・・・・・・・・・424

蝙蝠蛾のヴィナス／翅無彷徨譜／飾非標本／星は死の哲學／擬態帝國／
何をとむらふ／祝婚の譜／濕地帶妄想／夏燦燦物語／年賀狀添歌